



《左京区まちづくり運営方針》

資料 4



ヨウ君

「左京区まちづくり運営方針」は、この左京のまちで、区民や左京に関わるすべての人々と一緒にまちづくりを進めていくために、どんなまちにしていきたいか、そのためにどのようなことをしていくのかを示すものです。

目指す姿（計画期間：令和8年度～令和12年度）

「左京に暮らし、働き、学び、関わるすべての人々」が、左京の自然や文化の中で、自分らしく過ごし、誰かとつながりたいとき、つながりが必要なときには、見つけることができるまち。また、人を助ける側だった人が、ときには助けられる側にもなる、そんな「お互いさま」の心があるまち。

まちづくりの方向性

目指す姿の実現に向け、左京区役所が多様な人や活動をつなぐ「結節点」となり、このまちに関わる人々が思いを共有し、一緒にまちづくりに取り組んでいけるようサポートします。



サキちゃん

柱1 地域に根差した多様なつながり

地域に根差したコミュニティの力は、まちの活力の源です。自治会・町内会といった地縁団体、NPO・ボランティア団体といった志縁団体や、留学生をはじめとする外国籍市民など多様な方々と共に、人と人、人と活動がつながり、互いに支え合う関係を育てていきます。また、支援を必要とする区民の困り事を区役所全体で共有し、きめ細かな支援を行う、重層的な支援体制を築いていきます。

柱2 左京の個性をいかに

左京は、豊かな歴史と多彩な文化を有するとともに、市内行政区の中で最も大学が多く、文化施設が集積するなど個性のあるまちであり、こうした地域の特性に応じたまちづくりを推進していきます。また、まちに息づく多彩な「学藝（がくげい）」—先人たちが育んできた知識、芸術、技術、地域独自の文化—を再発見し、その魅力を発信していく場を共に創り出していきます。

柱3 自然との共生

左京は、山、川、里の多様な自然が暮らしのそばにあり、この環境や地域の食文化をかたちづけてきた自然の恵みに感謝し、親しむ機会をつくっていきます。一方で、災害の多い地域であり、行政による「公助」がすぐに届かない場面でも、地域の方々の「つながり」から生まれる「共助」と「自助」の力を育み、支えています。

柱4 北部山間地域のまちづくり

北部山間地域は、区民共通の資産である豊かな自然や伝統文化を有する一方、過疎化が進展しています。都市部と山間地域のつながりを意識し、交流を育むとともに、元気に暮らし続けられるよう、地域の方々と手を携えて、取り組んでいきます。

皆様に大切にしてほしい思い

「お互いさま」の心がある、人の温もりに満ちたまちにしていくため、以下の3つの思いを大切にしましょう。

- ・近所の方とあいさつを交わすなど、**地域でのつながりの意識**を大切にする。
- ・住んでいる・関わっている**地域への愛着と誇り**を持つ。
- ・国籍や文化が異なるなど、**多様な背景や立場をお互いに理解**する。

令和8年度 主な取組

（1）共創を核とするまちづくり推進事業 **柱2**

区内で取り組まれる、まちの魅力向上や地域課題の解決に向けた、自主的なまちづくり活動に対して経費の補助等を行います。また、左京カタリストの皆様をはじめ、地域の多様なネットワークを広げるための取組を進めます。地域の課題解決に向けた「共に創る」まちづくりを後押しします。

（2）左京区民ふれあい事業 **柱1**

左京への愛着を育み、地域の方々の交流を深めるため、各種団体等との協働により、左京区民ふれあいまつり等を開催します。ふれあいまつりでは「子ども」をテーマとし、親目線・地域目線・子ども目線で、子どもが安心して過ごせる地域、愛着を持てる地域について考え、地域交流・多世代交流の促進を図ります。

（3）災害に強い左京区づくり事業 **柱1 柱3**

地域の特性に応じた「地区防災計画」づくりを支援します。また、安心安全な避難所運営ができるよう、自主防災会への備蓄品購入支援を継続するとともに、昨年度改定した「京都市避難所運営マニュアル」に基づき、避難所ごとの「運営マニュアル」の更新を支援します。

（4）区制100周年を見据えた地域の魅力創造発信事業 **柱2 柱4**

令和11年度に左京区制100周年を迎えるに当たり、北部山間地域から都市部に広がる地域の文化や自然、独自の取組など、左京の持つ様々な魅力を発掘し、広く発信していきます。また、地域で継承されてきた「学藝」の価値や、それを支える人々の思いを再認識し、区民が地域の文化に関心と誇りを深め、担い手となる可能性を広げる事業や、区外の多くの方々にも、左京の豊かな魅力を深く知っていただくための事業を展開します。

詳しくはコチラ



イイネ課長